

最近の奥内みどりの少年団の活動

奥内みどりの少年団

団長（奥内小学校6年）	飯田 康平
団員（奥内小学校6年）	名古屋あやか
団員（奥内小学校6年）	佐藤みゆき
団員（奥内小学校6年）	佐藤 淳哉

1 はじめに

奥内みどりの少年団の結成は平成5年で自然に親しみ、緑を愛し、緑を守り育てる活動を通して人を愛し、郷土を愛する心豊かな人になることです。また、奥内みどりの少年団は、奥内小学校の中にも位置付けられて学校全体での活動でもあります。

学校では、自然や人、地域社会など、身近な環境にかかわる具体的な活動を通してわたしたちが環境やその問題に関心をもって判断し環境を守るための行動をとれるようになることなど学校の方針とも一致しています。

奥内地域は、昔の森林鉄道の沿線にあり木にかかわる仕事の人が多く、少年団の活動に協力的である。奥内みどりの少年団は、学校を中心に地域の人達で育成している少年団です。

2 最近の3カ年の活動

(1) きのご植菌作業

実施日	平成10年4月30日	10:30~11:20
	平成11年4月28日	10:30~11:20
	平成12年4月19日	10:30~11:20

(ここ何年間は毎年行われている)

実施場所 奥内小学校体育館脇の中庭
(平成11年は、小雨のため体育館)

参加者 4~6年少年団 約100人

日程 9:00~ 協力者が事前の準備作業を行う
10:30~ 中庭に集合し あいさつ
作業手順を教えてもらう
10:40~ 作業
ドリルで穴あけ一金づちで植菌ーほだ木の運搬
ほだ木を並べる
(グループ内の二人組で作業をする)
11:15~ あいさつをして後片付け

- 準備物
- ・ほだ木 200本 地域の協力者
 - ・シイタケ菌
 - ・穴あけ台
 - ・ドリル
 - ・軍手
 - ・金づち

写真-1 協力者があいさつそして作業の説明



写真-2 今年始めて参加の4年生



写真-3 ドリルで穴をあけているところ
(1本のほだ木に7~8の穴を4列あける)



写真-4 植菌作業
菌をこぼさないように(地面にこぼすと雑菌がつく)



写真-5 ブルーシートをしいて体育館での植菌作業



写真-6 二人組みでほだ木の運搬



写真-7 ほだ木を交互に並べる



写真-8 おわりのあいさつをして4・5・6年の代表が一言感想を發表している



感想

穴があいているほだ木を取りに行き、その穴に打ち込む菌のついた小さなコルクもってきて、右手に軍手と金づち、左手に菌のついた細い方を少し入れて、金づちで打ちました。

「きのこの植菌作業は、二回目だけど、久しぶりなので楽しいな。」
と思いながらやりました。

穴をあけたほだ木がなくなったので、自分たちで穴をあけることになりました。友達が、ドリルで穴を明けているのを見て、失敗していた人もいたので、

「やめよっかな、でもな。」

と思っていたら、私の番がやって来ました。説明を聞いて、ドリルを実際にもって見たら、重かったのでびっくりしました。ドリルのドドドドという振動が伝わって来ました。結構むずかしくてきんちょうしました。

きのこ植菌作業は二回目だったけど、ドリルを使ったり、ちがう人とやったので、とてもおもしろかったです。早く、私たちが植えたシイタケを使って、たきこみご飯やいろんな料理が食べたいと思いました。

(2) 内真部 国有林 植林体験学習

実施日 平成10年5月22日 10:00~14:00

実施場所 内真部地区国有林

参加者 5年生33人

日程 10:00~ 学校発

10:30~ 現場着

説明を聞いて植林の体験学習をする。一人5本のびばの苗木を植える。

12:00~ 眺望山自然公園で昼食をとる。

12:40~ グループに別れて森林教室に参加

13:50~ 学校着

感想

5月22日(金)に眺望山に行ってひばの苗を植えに行きました。まず、営林署の人や、東農林事務所の人たちの話をよく聞いて、いよいよ苗を植えに坂を登りました。とても急で道がないところもありました。

くわで穴を掘ってひばの苗をおいて土をかぶせ、長靴でふみました。それを続けて4本くらい植えました。そして自然公園に行って、昼食を食べることになりました。内真部川で遊んだりしました。川はとてもきれいでいろんな生き物がいるなと思いました。

時間がきて、森林教室がはじまりました。いろんな説明を聞いたり植物や木が

ありました。途中へびが出てきてびっくりしました。最後に自然のつくりがわかったようなきがしました。時間がなくなって残念でした。

(3) 学校林見学と枝打ち体験教室（全校遠足を兼ねる）

実施日 平成11年6月10日（木）

実施場所 前田地区山林 学校より西方約4キロ

参加者 4～6年約100人

日程 9：00～協力者現地到着準備

9：10～学校林入り口到着

・タオル、軍手、水筒をもち、長靴をはいて徒歩

10：00～学校林の由来と作業の説明

学級毎に枝打ち作業開始

枝打ちロボットの見学と森林についての学習

11：00～学校林出発

12：00～野木和公園到着

準備物 ・高所枝打ち挟み・枝打ちロボット

写真-9



写真-10 枝打ちロボットがみえます



写真-11 学校林について木の育ち方などの説明を受けている



感想

ぼくは、全校遠足で学校林について行って枝切りと枝切りロボットのリモコン操作を体験しました。

最初の枝切りでは、のこぎりを上に上げたり下に下げたりするのがうまくいかずにまちがえて動かして切れなかったり、のこぎりがうまく届かなくて苦労しました。

次に、枝切りロボットですが、ロボットは上の方にチェンソーがついていて、木を登るのに、ローラーが十個近くついていました。

3 おわりに

平成10年から3年間の活動は、奥内小学校の学校の方針とみどりの少年団の方針が一致しているところが多くありました。

学校では、私たち一人一人が身近な環境にかかわり、気づき、思いを寄せ、自分の考えをもち、自分で行動する子をと考えているようです。今年から始まった総合の時間では、例えば、4年生は、「汚れた水のゆくえ」ということの勉強からきれいな水は、森林が大切なんだということ勉強し、5年生は「地域の川をみつめよう」ということで、奥内川をくわしく調べたりしました。

ぼくたち6年生は、4年生からみどりの少年団に入団しましたが、初めのうちは、何をするのかよく分かりませんでした。でも4年生で、飲み水のことを勉強し、青森市の水が日本一だということを知り、みどりの少年団の意味が少しわかったような気がしました。

5年生になり、林業教室を体験したり水の汚れを学習しました。それらを通して、大きく育っている木々が何十年もかけてそうなったこと、そのためには、たくさんの世話や作業をしなければならないことをなどを学びました。また、青森市内で学校林をもっている数少ない学校だということも知りました。さらに、水の汚れを学習していくうちに森林と漁業との深い関係を知ることができました。「森林（もり）は、海の恋人」という言葉が印象に残っています。このころから、森林の仕組みや働き、酸性雨による森林破壊に目を向ける人が増えてきました。

6年生になり、ぼくたちはいろいろなテーマで卒業研究に取り組んでいます。「森林がこの地球からなくなったらどうなる？」というテーマで研究を進めている人もいます。「森林と動物」の関係を取り上げている人もいます。卒業研究と一緒に、今、ぼくたちが取り組んでいることがあります。それは、メモ用紙にチラシや印刷に失敗した紙を使ったりと一人一人の行動は、小さなことかもしれませんが、みんなでやれば、森林を守ることに繋がっていくと考えているからです。

みどりの少年団の活動も環境教育も同じだと思います。破壊されたり、伐採されたいものは、すぐには元どおりにならないこと、長い年月が必要だということです。ぼくたち6年生は、3月でみどりの少年団を退団しますが、これからも、「地球規模で考え、足元からの行動」という言葉と、みどりの少年団の精神を忘れずに生活して行きたいと思います。